



あきたのそごちからとは？①

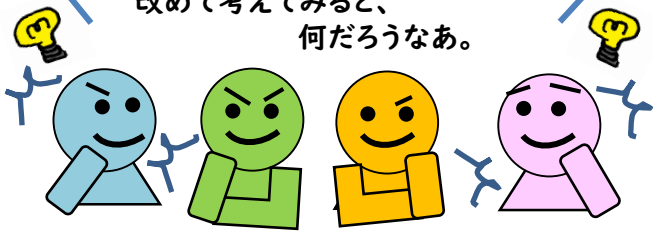


1年間、湊城西小学校の取組を伝えてきましたが、本通信のまとめとして、湊城西小学校の先生方に「あきたのそごちからとは？」というアンケートを行いました。今号では、湊城西小学校の先生方が考える「あきたのそごちから」についてお伝えします。

湊城西小学校の先生方に聞く「あきたのそごちからとは？」 → チーム力

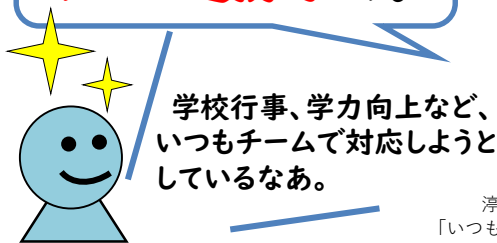
あきたのそごちからって？!

改めて考えてみると、
何だろうなあ。



湊城西小学校の先生方

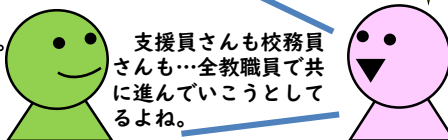
あきたのそごちからは、
チーム連携力です。



湊城西小学校6年生作
「いつも真けんな 原田先生」

相談し合える職場環境!

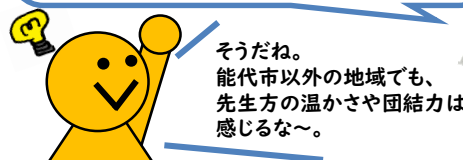
普段から、子どものことや教材研究のことを話し合い、お互いを高め合おうとしています。



湊城西小学校5年生作
「明るい 太田先生」

支援員さんも校務員さんも…全教職員で共に進んでいこうとしているよね。

初任者として一番感じるのは
**先生同士の
学び合い・助け合い**です。

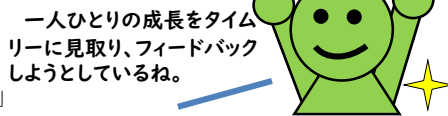


湊城西小学校3年生作
「元気な 山館俊太先生」

そうだね。
能代市以外の地域でも、先生方の温かさや団結力は感じるな～。

助け合う力

大人も子どもも、いつでもお互いに助け合おうとしています。この力が授業の「学び合い」につながっている気がしています。



湊城西小学校4年生作
「いつも元気な 遠藤先生」

一人ひとりの成長をタイムリーに見取り、フィードバックしようとしているね。

全教職員が同じ方向を向いてがんばろうという意識が、**県内のどの地域でも同じようにある**ということ!仕事をする上で、私の「根っこ」になっています。

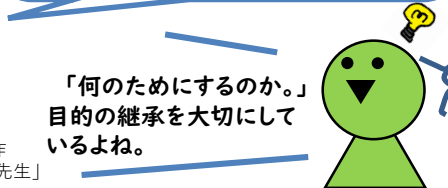


湊城西小学校2年生作
「いつもやさしい し水先生」

そうだね。
秋田県全体で、質の高い取組ができる理由だね。

よりよいものの継承

「教師が教育に向かう姿勢」「児童が学習に向かう姿勢」をチーム学校で継承しているところ!



湊城西小学校6年生作
「実験・説明上手な 熊谷先生」

「何のためにするのか。」目的の継承を大切にしているよね。

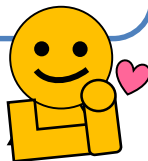
“チーム 湊城西小学校”
“チーム 能代市”
“チーム 秋田県”

秋田県全体が一つのチームとして、教育活動に取り組んでいます。

1対20ではなく 1対1を20回する

学級経営は全ての「もと」。
子どもとの信頼関係づくりを大切に
しています。

学級が子どもたちの居場所
になるように、学級経営を大切
にしているよね。



湊城西小学校 5年生作
「元気な 高橋先生」

集団になった時の素直さ

子ども達の集団の力は素晴らしい!
だからこそ、個性も大切にしていきた
いと思っています。

「個で考える場面」「集団で学び合う
場面」…授業でもねらいに応じて展開
を工夫しているなあ。

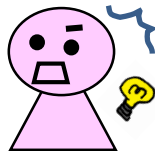


湊城西小学校 3年生作
「やさしい 多賀谷先生」

児童生徒ファースト

秋田県の先生方の共通の思い
です。先人の礎、伝統を大切に
しているところもあきたのそちから。

たしかに!
いつも、「子どもたちが」を主語
に、子ども中心で考えているね!



湊城西小学校 1年生作
「おしえてくれる やの先生」

最適解に近づける 繰り返し発問

意図的な発問と臨機応変な発問
で、子どもたちに力をつけたい!

授業で勝負!

子どもたちが身に付けるべき力
を付けられる授業になるように、発
問を大切にしているなあ。



湊城西小学校 2年生作
「めがねをつけた まゆ先生」

ポジティブカ!!

ふるさとの良さ、自分達の良さを
誇りに思い、一生懸命に学び続ける
力があきたのそちからです。

「学び続ける力」を育むためにも、
学びは“つながっていく”ことを
先生方は子どもたちに伝えるよ
うにしているよ。



湊城西小学校 6年生作
「いつも笑顔な 類先生」

素晴らしい自然(ふるさと教材)

それらを生かした学校でしかできない体験を、
より大切にしていきたいです。

生活科や総合的な学習を中心に、
地域を「学びのフィールド」とした体
験活動も大切にしているなあ。



湊城西小学校 5年生作
「笑顔がさわやかな 五代儀先生」

早寝 早起き 朝ご飯

基本的な生活習慣を身に付けることも、学
力向上につながる大事なことだと思います。

生活リズムは
全ての基本!

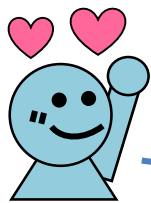
*平成27年度作成
“秋田わか杉
七つの「はぐくみ」”
でも大切にされてるよ。



湊城西小学校 4年生作
「毎日元気いっぱい 銭谷先生」

保健室から見たあきたのそちからは 真面目さだと思っています。

真面目に、こつこつとやり抜く力が
あるよね。コロナ渦の大変な局面も、
この真面目さで乗り越えてきたね。



湊城西小学校 6年生作
「いつも優しくて元気をくれる 中山先生」

“子どもたちのために”

目指す子どもの姿の具現化に向けて、「子どもたち
のために何ができるのか」を模索し続けています。



～難波指導教諭のつぶやき～

西小の先生方に“あきたのそちから”を尋ねると、真剣に考えて答えてくれました。どの“そちから”も日常的に見られる先生方や子どもたちの姿です。当たり前実践していること、大切にしていることが、そのまま“そちから”になるのだと感じました。そして、私も西小の先生に尋ねられました。「岡山のそちからは何ですか。」みなさんなら、なんと答えますか?

